

歯学教育関係に関する国会質疑について

〔第174回国会〕

質問年月日	委員会	質疑者
平成 22 年 3 月 4 日	参議院 予算委員会	櫻井 充 議員（民主）
内容	<p>○歯科医師国家試験の合格率が年々下がってきており、入口で定数の削減ができない、養成校の削減ができないため、出口でふさぐしかなくなっており、学生が非常に苦勞している。</p> <p>○歯学部を増やすという役割は終わったわけだから地域に一つぐらいずつで限定していき、今ある歯学部もやめなければいけないところがあるのではないか。</p> <p>○国家試験で絞るぐらいだったら、そこに国の予算を投じて育てていること自体がおかしいので、そのお金を別な診療科のところに回してくるようなことを考えていくべきではないか。</p>	

〔第174回国会〕

質問年月日	委員会	質疑者
平成 22 年 3 月 10 日	衆議院 文部科学委員会	川口 浩 議員（民主）
内容	<p>○歯学部志望者数が近年激減して、私立大学においては、入学希望者のほぼ全員が合格し、正常な学力選抜が全く機能していない疑いが一部の学校に見受けられる。</p> <p>○歯科医師の質の低下につながり、質の高い高度な歯科医療を提供することができなくなる。早急な実態の調査と適正化に関する指導を願いたい。</p> <p>○質の高い歯科医師の養成のためには、歯学部における適切な入学選抜と、歯学教育において適切な臨床能力を身につけさせるカリキュラムが必要ではないか。</p> <p>○治療と健康を担う歯科医師を養成するため、確かな技術はもちろん、命にかかわる医療であるとの認識のもとに、歯科医師の質の向上と人材確保に重点を置いた取り組みをしていく必要があるのではないか。</p>	

※平成 21 年 1 月以降における国会会議録より一部抜粋及び省略